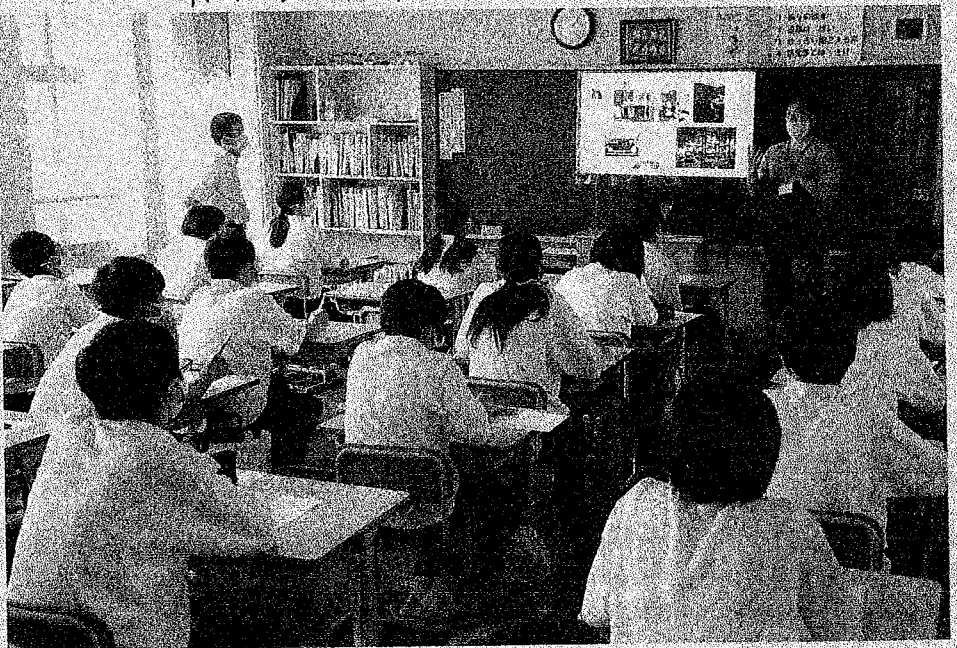


TOWN

起業のやりがい学ぶ

延岡・岡富中2年生 2カ年計画で総合学習

R3/6/15 7:11



延岡市立岡富中学校(粟田茂樹校長、306人)は4日、地元で活躍する起業家や家業の後継者を講師として招き、2年生111人が夢や苦労、やりがいなどを学んだ。

「中学生が起業する、起業家になって企業を起業するぞ」の一環、一連の活動を通じて、生徒の自主性、創造力などを育てる。

この日の講師は、地域デザインプロデューサーの甲斐慶太郎さん、結婚相談所を起業した佐々木由美さん、

将来の事業継承者がビジネスプランを競う「アトキ甲子園」でファイナリストとなった松田慶子さん。3人は、各クラスを1人ずつ順に回り、自身の生い立ち、仕事内容、起業までのいきりなどを伝えた。

このうち甲斐さんは福岡出身。延岡に「デザイン」した経緯、自身が起業したデザイン事務所「エリノアデザインラボ」の理念、仕事内容の他、運営する「ワーキング・スナック」「E計画」島野浦に今

の時まで。毎回、数

の収穫「春は」進級

体験で、目まぐるした

あなたの戦争体験募生

夕刊テイリー新聞社は、戦争を体験された方々の手記を随時募集しています。お寄せいただいた中から編集部がまとめたものを「語り継ぐ」コーナーに掲載します。戦後世代の方には、家族から聞いた話の話を書いていただくさい。文章の長さは自由でも構いません。ご家族の遺稿なども

年度開店予定の「満月食堂」など、さまざまな取り組みを発表した。

起業する喜びは「頭の中の考えが人に受け入れられ、何かが変わっていく様子を見ること」。苦労は「人の期待を常に超え続けたいといけないこと」と話し、「人生をどう生きるか」を考へることが起業につながると思

た。起業から学んだこととして「人生は学び続けられ、いくらかでも修正がきく」「好きなことしか本気を出せない」「やった時の後悔より、やらなかった後悔の方が大きい」などを挙げ、起業家の道を「人と違う人生は苦しい」と語った。だが、後悔しなから、毎日を

一生懸命生きる。日々の積み重ねが自分や事業を一歩前に進めることになる」と結んだ。

甲斐一葉さん(14)は「一人のためになる仕事をしたい。常に期待を超えられるよう、一生懸命勉強します」と話した。

今後、生徒はアロカ

シビル・ウェッタ シンハの世界展

木城えほんの郷 7月1日まで開催

木城町石河内の木城えほんの郷(黒木郁朝村長)で7月1日まで「まほろのひょうたん」シビル・ウェッタ

ら写真の撮り方を学んだ後、職場を訪問して働く姿を写真に収め、写真コンテストへの出品、文化祭での発表、修学旅行関連活動などにつなげる。来年度は、訪問した企業のCMを作成しコンテストを実施。2年間の集大成として、市内の高校と協力して「起業家」としての発表の場「産業フェア」の開催を目指している。

ンハの世界」が開かれている。入場料は大人500円、小学生がら高校生まで300円。ウェッタシンハさんは、スリランカを代表する絵本作家。南部の福岡な風土で生きる人や生き物たちの織りなす愉快な物語が、日本の子どもたちにも親し